

学 校 図 書 館 だ よ り

平成27年 12月22日(火) 冬休み号 山都小学校図書館部

読書調査から

11月は読書月間でした。そこで、1か月の間に、本を何冊読んだか、調査をしました。各学年の結果は、下記の通りです。

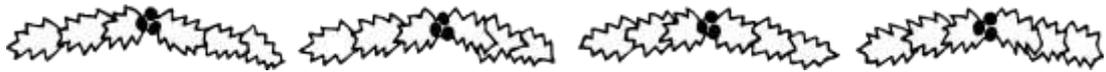
1. 各学年の1か月間の読書冊数(学校及び家庭等での読書冊数の合計)

選 択 肢	1年	2年	3年	4年	5年	6年
0冊	0	0	0	0	0	0
1冊	0	0	0	2	1	0
2冊	0	1	0	5	7	4
3冊	0	2	1	6	6	1
4冊	0	4	1	1	2	2
5冊	0	3	0	5	1	1
6冊	1	5	0	1	0	2
7冊	0	3	0	0	0	2
8冊以上	12	9	17	1	0	7
学年全員の読書冊数の合計	102	251	409	73	46	131
学年全体の平均読書冊数	7.8	9.3	21.5	3.5	2.7	6.9

2. 読書したきっかけ

選 択 肢	1年	2年	3年	4年	5年	6年
友達に紹介された	0	0	0	0	0	1
家族に紹介された	0	0	⑧	3	0	0
先生に紹介された	0	3	1	0	0	0
教科書に載っていた	4	0	0	0	0	0
学校の図書館で見つけた	5	2	2	6	8	7
公共の図書館で見つけた	4	2	6	6	7	1
本屋で見つけた	0	12	2	6	2	9
新聞・雑誌・テレビなどで見た	0	2	0	0	0	0
その他	0	5	0	0	0	1

山都小学校では、1か月の読書目標があります。低学年は8冊、中学年は4冊、高学年は3冊です。各学年とも平均冊数では、この目標が達成されています。しかし、個人的にみると目標に達していない子ども達もいます。3年生は、他学年を圧倒する読書量です。ほとんどの子ども達が8冊以上です。素晴らしいです。なぜ、3年生が突出しているのか。「読書のきっかけ」を見てみると、他学年は「学校や公共の図書館で見つけた」が多いのに比べ、3年生は「家族に紹介された」というきっかけが多いです。3年生の読書習慣は、家庭での読書に関する意識の高さもあるのではないのでしょうか。ぜひ、保護者の皆さんが子どもの頃に読んで、心に残っている本を子どもたちに紹介してあげてください。そして、読んだ感想を交流してみてもはどうでしょうか。



クリスマスの思い出

さて、明日からは冬休みです。冬休みといえば、やっぱり、クリスマスでしょうか。子ども達も今からワクワクしていることでしょう。

私が子どものとき、我が家のクリスマスプレゼントはいつも決まっています。クリスマスイブの夜は、枕元にボール紙でできた大きなサンタクロースの長靴（どこから手に入れたのかよく覚えていませんが、我が家には子どもの数だけありました。）を置いて寝ていました。次の日目が覚めると、決まって、その長靴にたくさんのお菓子が入っていました。今の子ども達はお菓子がプレゼントでは喜ばないでしょうが、私が子どもの頃は、毎日30円のお小遣いを握りしめて、近くの駄菓子屋に行ってお菓子を買ったり、くじを引いたりする程度でしたから、長靴いっぱいのお菓子は、本当にワクワクしました。父親が入れているのだろうと兄弟でいつも話をし、起きて確かめようと何度も試みましたが、いつもダメでした。

そんなお決まりのクリスマスプレゼントが、中学生になると突然、お菓子ではなくなりました。

いつものように長靴を枕元に置いて眠り、朝、目覚めると長靴がありません。あったのは紙に包まれた四角いもので、中から出てきたのは2冊の本でした。「もう、中学生なのだからお菓子では・・・。」と父が気遣ってくれたのでしたが、あまり本を読まなかった私は、お菓子でないことに少しがっかりしたのを今でも覚えています。

父が初めて私にプレゼントしてくれた2冊の本は、真っ赤な表紙の「野菊の墓」といわさきちひろが絵を描いた「ベトナムのダーちゃん」という絵本でした。「野菊の墓」は伊藤左千夫の名作です。思春期の淡い恋の話ですが、悲しい結末の話でもあります。「ベトナムのダーちゃん」はベトナム戦争で孤児になってしまった少女の話です。

父がなぜ、この2冊の本を選んだのか、父なき今、聞くこともできませんが、中学生になった私に、何か伝えたいものがあったのだと思います。

はるか昔の出来事ですが、忘れられないクリスマスの思い出です。

